

活動内容：国際学会での発表

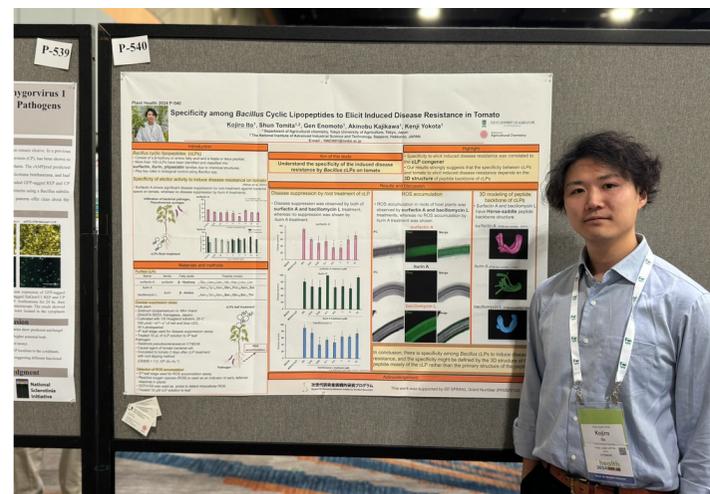
国際学会から農業の将来を考える

伊藤 光次郎（博士後期課程 2年）

渡航先：アメリカ合衆国・メンフィス

Plant Health 2024 - American Phytopathological Society
(2024 7/27 - 7/30)

アメリカ合衆国で開催された、植物病理学に関する学術会議であるPlant Health 2024に出席し、自身の研究成果をポスター発表しました。私の研究は、微生物農薬に利用される有用微生物について、植物病害抑制に関与する生理活性物質の作用機序を理解することです。その研究は、より効果的な微生物農薬の開発に必要となります。本大会では、有用微生物の培養液から精製した生理活性物質を使用して、トマトの病害に対する病害抑制効果を評価し、その効果がトマトの免疫誘導(病害抵抗性誘導)によるものであることを報告しました。さらに有用な生理活性物質の立体構造が、トマトの免疫誘導に影響することも示しました。



世界の人口の爆発的な増加を背景に、植物病害の防除は、重要視されている分野です。本学会でも、環境負荷を意識した持続可能な植物病害の防除体系構築に関する研究発表が多くみられ、他の研究グループとの議論を通して、自身の研究の重要性を強く実感することとなりました。

将来、本専攻で修得した、農芸化学の知識を礎として、食料問題という世界共通の課題解決に貢献できる研究者になりたいと思います。